<2003>

◎新聞記事「立ち木トラストに区切り」

熊本日日

'03 9/15

「ゴルフ場阻止できた」

天草立ち木トラスト運動 契約失効を通知

天草のリゾート開発に反対して立ち木トラスト運動を展開していた「天草立木信託」（中井俊作代表）は、今春で契約期限が切れ、「ゴルフ場などの開発も阻止できた」として、トラスト契約の失効をこのほど、県内外のオーナーらに通知した。

同運動は一九九三（平成五）年、本渡市から天草郡五和町にかけての丘陵地一帯に、ゴルフ場などを建設するリゾート開発計画に反対して展開された。ヒノキなど四百本近い立ち木を、一本千円で買い取ったオーナーは最終的に二百人余りに上った。

十年契約のため今年で期限切れを迎えた。契約は自動更新されるはずだったが、新たな開発（計画）が今後は見込まれないことなどから、中井代表らは「目的は果たした」と契約の失効を決めた。今後も「自然環境の保全」を掲げ、里山を残す働き掛けをしていくという。

本渡、五和両市町では一九八七（昭和六十二）年、西武鉄道（埼玉県所沢市）によるゴルフ場建設計画が決まったが、一部地権者らの反対で用地交渉が難航。西武は進出を断念。その後、ワイン工場建設計画も持ち上がったが中止され、振り出しに戻った。

報告書には再生本金・契約事務、掛木点検維持管理の負担が大きい、と記したのですが。

天草発

立ち木トラストに区切り

'03 9.20 熊本日々新聞

本渡市から天草郡五和町にかけての丘陵地一帯に、ゴルフ場などを建設するリゾート開発計画に反対して始まった天草の立ち木トラスト。今年、オーナーたちとの契約期限を迎えた。トラスト運動の中心となってきた「天草立木信託」（中井俊作代表）は「開発は阻止できた」と、トラスト契約の失効を県内外のオーナーに通知した。

「同信託」によると、立ち木トラスト運動が展開されたのは一九九三（平成五）年で、開発に反対する地権者十人の所有地約十㌶で行われた。最終的に、ヒノキなど四百本近い立ち木を、一本当たり千円で買い取ったオーナーは県内外で二百人余りに上った。

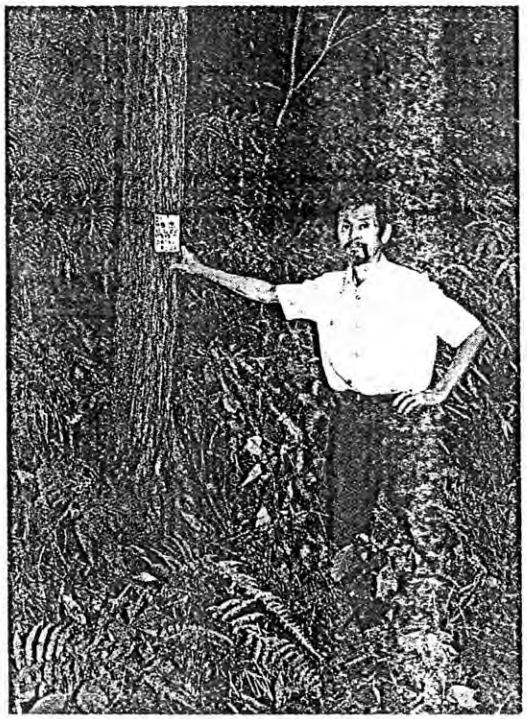
十年契約だったため、今年で期限切れを迎えた。契約上は「自動更新」のはずだったが、中井代表らは①契約を継続させることが必要な開発（計画）は見込まれない②契約を更新した場合の（金銭的な）負担が大きい―などから「当初の目的は達成した」と契約を失効させることにした。

同信託の今後の取り組みについては、立ち木オーナーを名誉会員と位置付け、現地の立ち木に付けたオーナーの名札は当面、そのままにして運動の意義をPR。開発予定地の管理、利用についても「自然環境の保全を第一にしてほしい」と、広大な里山を残すように働き掛けていく方針。

「開発優先から環境保全へ、時代の流れが大きく変わったということだろう」と中井代表。本渡市とともに、予定地を所有する五和町は「（今後の活用は）県などと十分に検討する。当然、環境保全の視点も欠かせない」と話している。

本渡、五和両市町にまたがる丘陵地約百二十㌶の開発をめぐっては一九八七（昭和六十二）年、西武鉄道（埼玉県所沢市）が県、両市町と進出協定に調印。九〇（平成二）年には国の総合保養地域整備法（リゾート法）指定も受けたが、ゴルフ場による農薬汚染などを心配する地権者らの反対で用地交渉が難航。立ち木トラスト運動も展開されて九七年に、西武が進出を断念。その後、ワイン工場の進出計画も持ち上がったが、二〇〇二年までに中止された。当初「総投資額は百億円に上る」と見込まれた一帯の開発計画は行き詰まり、振り出しに戻っている。

（天草総局・立尾啓二）



うっそうとした開発予定地。「当面、立ち木の名札はメッセージとして残す」と語る天草立木信託の中井代表＝天草郡五和町

「開発阻止」契約更新せず